三)

仕事給の正体

仕事給制度の正体、そんな事は今更云はなくとも、分つてゐる筈だ、だが会社側では係員總出で[illegible]うまそうな事を吹聴して歩き廻つてゐる。

俺達は会社側の云ふ事を頭から否定するものぢやないのだ、何故ならば、ヤツラ資本家と言へ共、極端に俺達の収入を減らす様な人々な真似はやらないのだ、恐らく唯一もがうなづき得ることである。

仕事給実施の曉と云へ共、その為初に於ては、それ程みじめなことのあらう筈はないのだ。だが而しその後からの俺達の収入はドンなになつて、行くか？ 今更こゝに述べる点もなく、鶴見工場の兄弟に、よく聞へて見ればよくその正体を知る事が出来るのだ。

勿論こゝで云ふ正体とは仕事給そのもーの全部と云ふ意味ではなく、其のカラクリ此巧妙さ、惨酷さを云ふのだ。